

* 特集！ * 「うちは比叡おろしですねん」

風は山から降りてくる レタスのかごをかかえて 唇はくびれていちご
遠い夜の街を越えて来たそう な うちには比叡おろしですねん
あんさんの 胸を雪にしてしまいます え ～「比叡おろし」～

大学が荒れていた時代の風は西から吹いていた。新しい文化の流れは関西発！ 小林啓子という透明な声で歌うフォークシンガーがいた。「比叡おろし」という曲に魅了された。作詞作曲は松岡正剛。

博覧強記で知られる編集工学のアノ松岡正剛は、半世紀も前にはお遊びだろうが作詞作曲もしていたのだ。

京都の呉服屋の生まれで、大学は東京。松岡正剛が書いている～北関東の一角に足利という夕陽のきれいな街がある。私はこの街が好きで、暇さえあれば浅草から電車に乗ってよく通ったものだった。駅を降りて、渡良瀬川にかかる中橋を渡ると、京都時代から好きだったおばさんの嫁ぎ先の家がある。大きな買継商をしていた。京都から来たおばさんに会うのも楽しみだが、足利に住む岡崎清一郎という詩人の追っかけをしていたのだ。詩集「春鶯囀」で一世を風靡した詩人だった。三日にあげずの追っかけで、最後は・・・一喝された。～



1944年京都生まれで「生涯一編集者」がモットーで、編集工学研究所長。ボランティア・NPO活動の時代のキーワード“編集”の世界的第一人者である。独自の日本文化論も展開している。“面影（おもかげ）”が日本文化のキーワードと語る。日本の正体は“変化するもの”にある。その変化を通して“面影（おもかげ）”がつかめる。

「この人はこんな人だ」という思い込みで相手を塗りつぶさない。そんな“余白”を、私たちは、家の中に、職場に、学校に、どうすれば残しておけるだろうか？！

(M生)

* 言葉のあやとり * ダイバーシティ（DIVERSITY）＝多様性！

* 国際社会において、当然の権利として確立されている「ダイバーシティ」。性別・国籍・人権・年齢などさまざまな違いを問わず“多様な人材を認め、活用すること”です！

* 大切なのは、“年齢や性別で判断するのではなく、そのひと自身の実力・才能を判断した上で、最適な人物が最適な役職に就き、社会に貢献できる仕組み”なのです。

* 年齢や性別や生い立ちに関係なく、能力がある人はその能力を発揮できる社会の実現を！

* ダイバーシティは、雇用や働き方の問題だけでなく、日常生活において、多様な人々の暮らしやすさをデザインすることが大事なのです！



* 私のボランティアことはじめ *

「障がい者の働く場を広げる」

比企香織

私には障がいを持つ息子がいます。症状が重い日には外へ出られない日が続きました。何もできず 1 日過ごす中、少しの時間だけでもいいので何かやりがいのある事をさせたいと思い、細かい作業が得意な息子に出来そうな、たかうじ君の箸袋を作成しました。同じように障がいを持つ子供やその家族と共に笑顔プロジェクトとして活動し、お互い悩みを相談したり情報交換等もできました。そして沢山の方から作成に必要なものを寄付していただき、店頭やイベントなどで配布し、本当に皆さまの理解ある優しさのおかげで、大変な時期を乗り越えられたと思います。



あの時の活動をきっかけに障がい福祉についていろいろと考え、自分も誰かの役に立てる事はないか、そして障がいのある方やそのご家族に寄り添いたいという思いから福祉の仕事に就きました。障がい福祉や介護技術を学びながら、現在は昨年 11 月にオープンしたばかりの就労継続支援 A 型青い鳥の支援員をしています。ここは障がいや難病を持った方、事故や病気で一般就労が難しい方でもしっかりと雇用契約を結び働ける場所です。作業内容はパチンコ台の解体や清掃、その他軽作業等で、男女問わず誰でも簡単にできる作業をしています。利用者さんも電動ドライバーやニッパーなど普段使わない工具を使っての作業は楽しい！と言ってくれるので和やかな雰囲気の中作業しています。

障がいは同じ診断でも人によって症状が違い、思うように身体が動かせなかったり、見た目では分からない精神的な病気でなかなか周囲の理解が得られない方など沢山いると思います。さまざまな障がいでお困りの方に働きやすい環境や作業内容を提供し、できる事を少しずつ増やしていき、より多くの方が自立した生活を送れるよう支援していきたいです！！



* マチのちゃぶ台 *

「足利の俳句探訪」

大岩山最勝寺に小林一茶を含む俳句会が行われた記録が残り、奥の細道から隔たった足利の市内に芭蕉句碑が愛宕神社等に 4 基を数える。



江戸時代の俳諧から現代の俳句まで連綿と受け継がれ、昭和二十年中島大三郎他による俳誌「火屋」が立ち上がり、暖流の滝春一を指導者とする。大三郎の逝去に伴い中森無伴主催の「楷樹」と改名される。以降の主催は久保田豊秋、小川朋久 令和二年解散。その中で光彩を放っていた女性の句を紹介する。

藍かめの花がぷくりと十三夜 / 空蝉のしがみついても過去は過去
身に炎ゆるものほし秋は通りゆく / 曼殊沙華無限つつみて消えにけり
ほうたる来い亜が世哀しと嘆きに來い (中川岱子) 文責 清水弘一

* INFORMATION *

※コロナ感染対策により内容が変更・中止になる場合があります。)

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんとご一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。

★令和6年1月19日(金) PM2:00～4:00

*本 : 細川重賢 熊本藩財政改革の名君(童門冬二)

*案内人 : 白田 明さん

*ひとこと: 革命的な改革を断行するには、藩主が「既得権益」を放棄し、非常時に才覚を発揮する能力をもった人材を発掘し、抜擢し、全権を委ね荒療治をする必要がある。それこそが、非常時を乗りきる決め手。熊本藩をドン底からよみがえらせた名君と異風者藩士たちの改革断行の足跡。現在でも、その組織改革の手法は役立つでしょう。

★令和6年2月16日(金) PM2:00～4:00

*本 : 「弱者の居場所がない社会～貧困・格差と社会的包摂」(阿部 彩)

*案内人 : 三田 和子さん

*ひとこと: “東日本大震災以降、震災前から存在していた日本の格差を指摘し、貧困問題へのはじめの一歩に最適な本です。生活の困窮とその格差は昨今始まったわけではありませんが、最近のそれは著者が指摘するように、その内容と量が明らかに変化しています。居場所・つながり・役割・・・等のキーワードとなる「社会的包摂」無しにはこれからの社会保障政策は語れません。

★令和6年3月9日(土) PM1:00～3:00

*本 : 「蜘蛛の糸」(芥川龍之介)

*案内人 : 水落 洋美さん

*ひとこと: “教科書で一度くらいは読んだことがあるに違いありません。芥川龍之介の数ある小説の中でも有名なものです。地獄から蜘蛛の糸を登って助かろうとするのですが大勢が後から登って来た時に「この糸はオレのものだ。降りろ！」と言った瞬間に糸は切れて本人ともども再び地獄へ落ちて行ってしまう・・・という物語です。考えさせられることがたくさんあります。皆さんと一緒に!

■参加費: 無料

■会場/問い合わせ: 足利市民活動センター ☎44-7311

☆「企画展」(交流コーナー)(土・日・祝日・1/15・2/19・3/18は休館日)

1月 4日(木)～	1月11日(木)	能面の雅び展
1月16日(火)～	1月25日(木)	お茶と暮らしの水彩画展
1月29日(月)～	2月 8日(木)	ボランティアグループ“あどもい”展
2月13日(火)～	2月22日(木)	足利風原画展
2月26日(月)～	3月 7日(木)	私の好きなもの展
3月11日(月)～	3月21日(木)	東日本大震災13周年展

※展示時間・・・10:00～19:00 ただし最終日は15:00まで

☆「相談室」 ※詳しくは、別紙参照

1月17日(水)	14:00～16:00	コーヒーを美味しく淹れる
2月14日(水)	14:00～16:00	家庭菜園のすすめ
3月16日(水)	14:00～16:00	だれでもかんたん楽しい手品

編集後記

人生で初めて腕を骨折した。全治2か月と言われ、「困った!通勤、仕事、家事、・・・
どうしよう」と頭を抱えたが、いろいろな方に助けをいただき完治できた。人との
つながりを大切にしなきゃとしみじみ感じた2か月だった。(しおぱん)